

今週（9月14日から9月18日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、日銀当座預金残高が14日の源泉所得税揚げとTB3M物発行によって若干減少したものの、16日には貸出増加支援オペによって大幅に増加し、週末には470兆円台となった。14日は積み期間の終盤で先週末と同様の展開となり、一部投信は▲0.087%でも出し残る先が見られた。調達側は地銀業態を中心に▲0.08～▲0.06%を中心に出会いが見られた。積みの最終日である15日は、一部の大手行が▲0.065%までレートを上げて調達したことで、地銀業態も取り上がりとなり、▲0.065～▲0.05%での出会いが見られた。新しい積み期間に入った16日以降は、業態ごとに調達意欲に差が見られたことに加え、個々の金融機関においても調達意欲に差が見られた。地銀・証券業態の出会いには▲0.08～▲0.015%と幅広いレンジで、都銀・信託業態の出会いは▲0.08%前後と低い水準であった。ターム物に関しては、週初は1Wのショートターム物で▲0.05～▲0.03%近辺で出会いが散見されたものの、無担保コールO/Nの出会いレート上昇とともに強含み、▲0.02%台まで調達水準が上昇してきている。四半期末越えとなる2W以降の物はプラス圏内での調達も散見された。

固定金利方式による共通担保資金供給オペは18日に2W物・20,000億円がオファーされ、3,801億円（期落ち額1,801億円）と札割れとなった。

9月16～9月17日に開催された金融政策決定会合では、現状維持が決定された。

●レポ市場

今週のO/N GCは、▲0.100～▲0.070%のレンジでの取引となった。積み終盤と積み序盤を跨ぐ週となったが、投資家の資金調達が入り、レートは安定して推移した。

SCは個別銘柄では2y411～414、5y139～144、10y336～359、20y169～173、30y59～66、40y11～13など、カレント銘柄近辺や、チーベスト周りの銘柄にビッドが多く見られた。

●短国市場

今週の短国市場は、GCレートの低下が一服する中、相次ぐ入札を前に、15日のオペ以降はやや閑散な地合いとなった。3Mは▲0.120～▲0.110%出会いと、やや軟調に推移した一方で、6M物、1Y物は▲0.160%近辺の出会いと、堅調に推移した。

15日に実施された短国買入オペは、前回から5,000億円増額の15,000億円でオファーされた。平均落札利回較差+0.007%、按分落札利回較差+0.004%と、無難な結果となった。

16日に実施された1Y物の入札は、WI取引において、▲0.135～▲0.130%での出会いが見られる中、平均落札利回▲0.1365%、按分落札利回▲0.1365%と、順調な結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットでは、▲0.160～▲0.153%出会いと、堅調に推移した。

18日に実施された3M物の入札は、WI取引において、▲0.120～▲0.110%での出会いが見られる中、平均落札利回▲0.1107%、按分落札利回▲0.1045%と、無難な結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットでは、▲0.113%出会いと、入札と同水準で推移した。

●CP市場

今週のCP市場は、ノンバンクを中心に様々な業態の入札が実施されたものの、500億円以上の大型発行は商社と重工業の数件にとどまった。償還総額約7,500億円に対し、発行総額は約5,700億円となり、償還超となった。市場残高は25兆円台後半と引き続き高水準で推移している。発行の状況は先週とさほど変わりなく、一般事業法人においては、9月末に向けて発行が多少手控えられている。発行レートはCP等買入オペや新型コロナ対応オペの担保需要などの要因から、引き続きマイナス圏で推移している。

15日にはCP等買入オペが事前予定通りの6,000億円でオファーされた。前回（按分▲0.042%・平均▲0.018%）から更なるレート低下が期待される中、按分レート▲0.058%・平均▲0.039%となった。足元の新規発行が減少していることで、応札額が8,906億円程度にとどまり、按分・平均共に低下する結果になった。

●短期金融市場関連指標

	日経平均 (円)	新発10年物 国債利回り (%)	為替 (円/円中心相場)	無担保コールO/N (加重平均・%)	東京レポレート(翌日物・ T+1スタート・%)	日銀当座預金残高 (億円)
9/14 (月)	23,559.30	0.015	106.15	△ 0.072	△ 0.090	4,568,300
9/15 (火)	23,454.89	0.015	105.68	△ 0.052	△ 0.092	4,574,100
9/16 (水)	23,475.53	0.015	105.28	△ 0.056	△ 0.091	4,672,000
9/17 (木)	23,319.37	0.010	105.05	△ 0.051	△ 0.097	4,689,200
9/18 (金)	23,360.30	0.010	104.82	△ 0.046	△ 0.088	4,713,000

来週（9月23日から9月25日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
9/21 (月)	敬老の日				
9/22 (火)	秋分の日				
9/23 (水)	大阪経済4団体共催懇談会において黒田総裁講演				
9/24 (木)	金融政策決定会合議事要旨(7月14・15日分 8:50) 月例経済報告 (内閣府)	TB6M 37,000億円 9/25発行	40Y 5,000億円 9/25発行		8月の米新築一戸建て販売件数
9/25 (金)	8月の企業向けサービス価格指数(日銀 8:50)	TB3M 75,500億円 9/28発行			8月の米耐久財新規受注

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
9/21 (月)	敬老の日								
9/22 (火)	秋分の日								
9/23 (水)	800	80,400	81,200	全店共通 CP買入 国債補充	▲ 1,800 ▲ 900 300	3,800	1,400	82,600	国債の大量償還・利払い TB3M発行▲75500償還80200 TB1Y発行▲35000償還9200 流動性供給▲4000 5Y償還21400 10Y償還50900 20Y償還5600 変動15Y償還9000 エネルギー対策借入▲6000期日7000 財政融資資金の回収
9/24 (木)	1,000	▲ 2,000	▲ 1,000				0	▲ 1,000	
9/25 (金)	▲ 1,000	▲ 40,000	▲ 41,000	社債買入 新型コロナウイルス支援		2,000	2,000	▲ 39,000	TB6M発行▲37000 40Y発行▲5000
週間合計	800	38,400	39,200	—	▲ 2,400	5,800	3,400	42,600	

9/23は日銀予想、9/24以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、連休明けの23日は国債の大量償還で大幅な資金余剰となる。24日には新型コロナオペがオフアされる。無担保コールO/Nの動向が注目される。レポ市場は、地合いに大きな変化はなく、投資家の資金調達意欲は継続すると思われる。GC T/Nは▲0.100～▲0.070%のレンジでの推移を予想する。短国市場は、24日に6M物の入札、25日に3M物の入札が実施予定となっている。短国の需給悪化が懸念される中、レート水準を含め、市場動向が注目される。また、23日に実施されると見込まれる短国買入オペのオフア額にも注目したい。CP市場は、CP買入オペが25日に予定されている。期末に一般事業法人の大量償還を迎えることで、対象となる銘柄が減少する中、按分レートがどの程度に落ち着くのかに注目が集まる。

主要なイベントは、特段無い。

◆本資料は信頼できると思われる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。

◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。

◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目録見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入